学習テーマ　　主な関連項目：普遍―②③、個別―①③④

養護学校との交流を通して相互理解を深める

＜高等学校＞

目的　○養護学校との交流を通して互いに理解を深めあう。
○ノーマライゼーションについての理解を深める。
○地域でともに暮らす生活者としてのつながりをつくる。

気づく

地域の養護学校の存在について知る

○障害者との交流体験を出し合う。
○交流する学校の様子を知る。
○同世代の障害者との交流が大切であることに気づく。

○養護学校とビデオレター等で交流する。
○ボランティア体験等、自分自身の体験を出し合う。

広げる深める

養護学校との交流会を計画する

○レクリエーションやスポーツ、調理、農作業など、みんなが参加できることを考える。
○事前準備として何が必要かを考える。

○事前に学校間で交流会についての共通理解を持つ。時間帯については両校の教師間で事前の協議が必要。
○予め作成できるものを考える（紙芝居や折り紙等）

計画する

交流会の持ち方を、互いの学校の生徒間で自主的に計画する

○互いの生徒会等を通じて数回の検討会を持つ。場所は交互に学校を変えて持つ。
○互いが楽しめるような取り組み、障害が重い生徒も主体的に参加できる取り組みを考える。
○両校で当日の役割分担（進行役等）、プログラムを作成する。

○障害が重い生徒については、事前に養護学校の教師より説明を聞き、理解を深めておく。
○両校でペアとなる人を決め、その交流を中心に活動することもできる。

実践する

交流会当日

・風船バレーボールを楽しむ。
・陶芸作品を作る。

○協力しあえて、成就感・達成感が得られる内容の交流会にする。
○それぞれの障害により、適切なサポートが必要となる。事前の知識的理解をふまえ、交流の中で適切なサポートのあり方を身につけていく。

○交流会の内容については他にシッティングバレーボール、グランドゴルフ、「王様は誰だ」等、からだを動かす様々なゲームやクリスマスツリー作り、貼り絵、調理活動等考えられる。

振り返る

交流会後、感想発表や意見交流の場を持つ

○感想を出し合うことにとどまらず、今後自分たちができる日常的な交流について考える。
○日常的な交流を妨げている様々な要因について意見を出し合う。

○現代社会等の教科学習、「総合的な学習の時間」等と関連させて、ノーマライゼーションを実現するためのハード面、ソフト面での課題についてまとめ、話し合える機会を持ちたい。

【学習を進めるにあたって】

・障害のある者とない者とが、地域で協力して生活することの大切さを交流を通して実感する。

・行事的な取り組みから、継続的・日常的な取り組みにしていくことが重要である。

・サマースクール等、生徒のボランティア活動にも結びつけて考えていくことができる。